

あきたスギッチファンド通信

No. 22 2016年1月29日発行

特定非営利活動法人

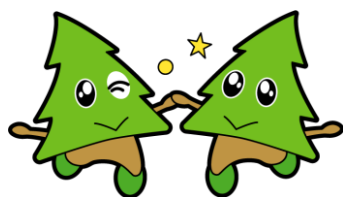
あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp

<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>



ファンドの寄付金受取状況

(27年8月～28年1月)

本ファンド	
団体寄付	1,910,475 円
個人寄付	464,000 円
合 計	2,374,475 円
冠ファンド	
合 計	800,000 円
分野指定ファンド	
若者の活動支援	200,000 円
合 計	200,000 円
総 合 計	3,374,475 円



秋田銀行様の
助成金贈呈式



今年も秋田銀行行員の皆様、 県職員の皆様から寄付が寄せられました。

昨年度、株式会社秋田銀行様が行員の皆さんにあきたスギッチファンドへの寄付をよびかけて下さったところ、100万円余のご寄付が寄せられました。今年度も同様に行員の皆様から100万円をご寄付頂きました。

あきたスギッチファンドでは、昨年と同じように冠ファンド「活力ある高齢社会づくりファンド」－高齢化先進県秋田の課題解決に一石を投じるような新しい取り組み－2事業と、新たに分野指定ファンド「若者の活動を応援するファンド」2事業を企画しました。高齢者と若者両面から生き活きた秋田の実現を目指したいと考えたのです。10月から募集し12月13日の公開審査会を経て、「活力ある高齢社会づくりファンド」には由利本荘市のサークル山鳩と秋田市の本庫HonCoに各30万円を、「若者の活動を応援するファンド」には湯沢市のこまち女酒会と秋田市のサービストラベルICCに各10万円を助成することに決定しました。1月28日秋田県庁で秋田銀行常務取締役営業本部長高田眞千氏から目録が手渡され、各団体決意を新たにしました。

秋田県職員の皆様には毎年のようにあきたスギッチファンドにご寄付を頂いておりますが、今年も324人から35万6千円が寄せられました。特にテーマは定めない本ファンドへ寄付したいということでしたので、来年度の助成事業に活用させていただきます。

複数年にわたり大きなご寄付を頂くことができ、あきたスギッチファンドとしては大いに勇気づけられ希望がわいてきます。本当にありがとうございました。

あきたスギッチファンドとクラウドファンディング

最近寄付金の集め方としてクラウドファンディングが注目されています。発案したプロジェクトや事業企画に対し、インターネットを通じて不特定多数の人々に資金提供を呼びかける資金調達のしくみです。寄付を求める事業がわかりやすく、はっきり見え共感をよびやすいですし、メディアを駆使した劇場的な資金集めは格好良く、これからますます広がるでしょう。

他方、あきたスギッチファンドは寄付を集めて、その寄付額全体から助成事業を募集し、審査を経て助成団体を決定します。寄付をお願いする時、助成事業が見えないため、共感をよびにくいという弱点があります。あきたスギッチファンドも同じように、事業を確定してから寄付を求めるという方式に変えていくべきかと悩んでしまいます。

本来あきたスギッチファンドの目的は、NPO等に資金を提供することで団体の基盤を強化し、市民活動を活発にすることです。飛躍するためには小さな資金でも必要だという団体や、資金だけでなくNPO中間支援センターからのコンサルティングを必要とする団体など、助成先にはそういうところが多く見られます。このあたりにあきたスギッチファンドの存在意義があるのではないのでしょうか。この点を活かしながら、どのような寄付金の集め方をするか、どのように助成するかが、今後の大きな課題となります。

「共助組織を継続・発展させる活動」助成事業

あきたスギッチファンドでは、昨年度秋田県から「共助組織等設立支援事業」を受託して、共助組織を立ち上げる団体に対して資金を助成した。その結果各地に12団体が結成された。各団体は除雪対策だけでなく、送迎支援、地域の安心安全のための活動などを視野に入れて事業を実施している。

今年度は、「共助組織等設立支援事業」は県が直接実施することになり、当ファンドでは、既存の共助組織が活動を確実に継続させるための仕組みを作る、活動を拡大発展させる、といった事業に助成することにした。

10月15日～11月10日に募集、8団体から応募があり、書類審査の結果全団体が採択となった。

選考委員

名 前	所 属
沼倉 充	NPO法人秋田県南パソコン支援市民ネット 副理事長
栗谷 侑志	株式会社ワーズ
恵比原 史	秋田県企画振興部地域活力創造課 課長

採択団体

団 体 名	活 動 内 容
羽場・市野・皿小屋地域生活サポートシステム	除雪活動の活発化、県道の除草作業を受託するために草刈機を購入
船沼除雪支援ボランティア組織 船沼SVO	除雪活動の活発化
保呂羽地区自治会	屋根の雪下ろしに向けて、高齢者世帯の屋根の構造調査、屋根に上るための梯子の購入
木下ふれあい隊	除雪活動の活発化、高齢者世帯の屋根の構造調査、高齢者の安否確認
大仙市間明田集落会	作業備品購入、除雪活動の活発化
稗田南サポートシステム	除雪活動の活発化、高齢者世帯の草刈り、見守り等
牛島西4丁目共助の会	除雪活動の活発化、高齢者宅の困りごと支援
種沢共助プロジェクト	除雪活動の活発化、高齢者の見守り、買物代行、その他困りごと支援

第14回（2015年度第2回）助成先決定

今年度2回目の第14回あきたスギッチファンドの募集は、10月15日～11月15日に行われた。応募状況、採択状況は下表の通りである。昨年度は応募件数が少なく、スギッチファンドのあり方に問題があるのではないかと懸念された。しかし今回は本ファンド30万円コースに9件と応募が集中し、逆に多くの団体の要望に応えられないという結果になった。

応募状況一覧

ファンドの種類	募集件数	応募件数	採択件数
本ファンド 10万円コース	3	1	0
本ファンド 30万円コース	3	9	3
冠ファンド「活力ある高齢社会づくりファンド」 30万円コース	2	3	2
分野指定ファンド「若者の活力を応援するファンド」 10万円コース	2	2	2

12月13日（日）、第14回あきたスギッチファンド公開審査会が遊学舎に於いて開催された。なお、選考委員の藤原謙委員と村岡典子委員は都合により欠席となった。

当日は午前中に冠ファンド、分野指定ファンドのプレゼンテーションを、午後から本ファンド30万円コースのプレゼンテーションを実施した。本ファンド10万円コースは、書類審査と協議で決定した。

選考委員からは、ファンドから助成を得て実施する事業の内容とその効果を明確にすること、収入の安定を図る努力をするように、次に何をするかを念頭に事業を進めること、息の長い活動を期待する、というようなコメントが述べられた。

本ファンド

30万円コース

団体名 Raku*iku（秋田市）

事業名 人間の心理を専門的に学び、“子育て”の中に役立てよう！
～「ママカフェリピーターズ」で学ぶ『選択理論心理学』

Raku*iku は、親自身が子育てに役立てられる内容を学びスキルアップを図ることで楽しい子育てにつなげることを目的に活動している。現在既に『選択理論心理学』の基本的な考え方を学ぶママカフェを実施している。今回は、子育て中の親、子育て従事者向けに、人の心理を『選択理論心理学』の中から専門的に学び、その考えをベースとした“子育て法”を具体的に習得する講座を4回実施する。

なお『選択理論心理学』とは、アメリカの精神科医ウィリアム・グラッサー博士が発表した心理学で、日本の選択理論心理学会の木村宣貴氏が講座の講師を務める。

団体名 NPO法人尚生ふくし園（能代市）

事業名 Nature Farm in NOSHIRO
～障がい者・障がい児の自立と共生

障がい者、障がい児とその家族、地域住民が、畑を借りて一緒になって大豆と野菜を作り、収穫した大豆を糶屋に加工作業を依頼し味噌を作る、さらに野菜や味噌などを販売するというサイクルを作り、「自立と共生の地域社会」を目指す。

障がい者、障がい児とその家族が地域住民と関わることによって理解を深めてもらい、地域と共に生き生きと暮らせるようになる、障がい者、障がい児には就労に対する意欲向上及びきっかけを作り出す場となることが期待される。

団体名 NPO法人由利本荘にかほ市民が健康を守る会（由利本荘市）
事業名 MED プレゼン in 秋田

MED プレゼンとは、医療・介護・福祉に関わる弁論大会。東京、仙台等で開催されており、聴講者が革新的な発表を聞くだけでなく、発表者同士がつながり、全国的なイノベーションにつながっている。

今回これに倣った「MED プレゼン in 秋田」を開催する。秋田県内を中心に、医療・介護・福祉分野で独自の取り組みで成果を挙げている方々に一般市民の前で講演していただく。発表者同士がつながり新たなイノベーションを生み出す機会となる。聴講する一般市民には医療・介護・福祉について新しい考えを知る機会になる。次世代を担うリーダーの育成につながると期待される。

冠ファンド「活力ある高齢社会づくりファンド～秋田銀行行員有志による～」

秋田銀行行員有志の支援による当冠ファンドは各団体助成額30万円。その審査には、秋田銀行地域サポート部の児玉大平氏も加わった。児玉氏からは各団体に事業を継続しアクティブシニアを増やして欲しいと要望が述べられた。

団体名 サークル「山鳩」（由利本荘市）
事業名 高齢者の生きがいの場創出事業

サークル「山鳩」は、昭和54年成人式を迎えた旧鳥海町の同年齢の仲間で結成した団体。それ以来由利本荘市鳥海地域でボランティア活動や地域づくり活動、青少年育成活動などを実施し続けている。

今回は、地域で収穫された特産であるりんごやアスパラガス、ネギ、しいたけ、山菜などの規格外品を低価で譲り受け、食品乾燥機を使ってチップスを作り、安価な値段で販売するという活動を、若年高齢者が中心になって実施する。

定年退職後も、地域に貢献できるような活動を実施することで、高齢者が生きがいを持って生活し、地域の活性化に結びつけることができる。将来はビジネスとして成り立つよう工夫を重ねていきたい。



団体名 本庫HonCo（秋田市）
事業名 世代を越えて老いを考える ～本を通して～

本庫 HonCo は、本を通じた様々な文化活動を実施している団体。

「老いる」ということはマイナスのイメージがある。しかし、「生きることは成長すること、成長することは老いること」という考えから、子どもから大人まで「老いをテーマ」にした本を読み話し合うことで、世代を越えて老いを考える機会とする。世代毎に読書会を作り「老いをテーマ」にした本を読み、最後にどの本が良かったか投票する。

高齢化が進展する秋田県だからこそ、老いを前向きにとらえ、老いのイメージを刷新し、明るい地域づくりへと進むことが期待される。



分野指定ファンド「若者の活力を応援するファンド」

秋田銀行行員有志の寄付金による当分野指定ファンドは、各団体助成額10万円。

団体名 こまち女酒会（湯沢市）
事業名 イマドキ女子のための日本酒入門

こまち女酒会は、日本酒に馴染みがない若い女性に“湯沢の日本酒のおいしさを知ってもらおう”ことをメインテーマに活動している。

今回は、20～30代女性に向けて、湯沢市の酒造会社とコラボして酒造見学しながら日本酒を知り楽しんでもらうイベントを行う。また、活動を広く知ってもらうために、イベント時に配布したり販売したりするグッズを作成する。

日本酒に馴染みの薄い若い女性層が、おしゃれに楽しく日本酒を飲める機会を創って清酒ファンを増やし、ひいては湯沢のお酒の魅力を広く発信していきたい。

団体名 サービストラベル International Cooperation Club（秋田市）
事業名 秋田の若者に国際協力を広める活動

経済発展の著しいベトナムであるが、現在ストリートチルドレンが大きな社会問題となっている。この問題に大学生としてどんな支援や協力が可能かを探りたい。

このような問題意識をもって、3月に5人でベトナムへのスタディツアーを行う。

① 現地で支援団体・施設でのボランティア活動の実践 ② 山岳民族を訪問し、生活（貧困）状況を確認 ③ 現地の大学生との意見交換 を行う。

帰国後、スタディツアーで学んだことをパンフレットにまとめ、秋田の大学生や中高生を対象にワークショップや講演会を実施、どんな国際協力ができるかを共に考え、さらに支援行動を促す機会を作る。



左 選考委員会

右 公開審査会会場



助成金でこんな活動をしました

ふれ愛サロン事業

ふれ愛塾（横手市）
代表 菊地 恵子

第12回あきたスギッチファンド助成事業
本ファンド 100,000円助成

ふれ愛塾は、横手市で一人になっても障害があっても住み慣れた地域で住民とつながり住み続けることができるようにという思いで活動している団体。今回は助成金で12月～8月の9か月に毎月サロンのイベントや交流会を開催した。参加者がそれぞれ趣味や特技を活かして役割を担い、フラワーアレンジメントや花苗交換、健康講話、笹もち作りなどを実施した。参加者からは「サロンはワクワクするほど楽しい」「この年で若い時の特技がいかせて自信が持てた」「困った時、お手伝いや相談事の解決が出来て安心した」といった感想が述べられた。

地域住民同士の交流の場、元気づくり、仲間づくり、生きがいなど、心身の健康につながり、介護予防となる事業となった。



あきたスギッチファンド寄付者一覧（平成27年8月～平成28年1月）

※敬称略、順不動、お名前の公開許可を頂いた方のみ掲載します。

団体・企業等	株式会社あくら、株式会社福岡ドライクリーニング、メガネのアオヤギ、 有限会社半田葬儀社、みちのくコカ・コーラボトリング株式会社、有限会社ワタ商事、 株式会社伊藤園秋田支店、サントリービバレッジサービス株式会社秋田支店、 ダイドードリンコ株式会社、株式会社プレステージインターナショナル、 株式会社秋田椿台ゴルフクラブ、 NPO法人 WeLove あきた歌のネットワーク、SOUPHOLIC、日本らんちう会、アル ヴェ朝市会、NPO法人あきた県南NPOセンター、NPO法人あきたパートナーシッ プ、スギッチファンド応援隊、船沼除雪支援ボランティア組織（一財）秋田県総合公社
個人	株式会社秋田銀行行員有志、秋田県職員有志、児玉大平、加賀谷智子、菅原展子